

令和5年度島根半島・宍道湖中海ジオパーク学術研究奨励事業補助金

島根半島・宍道湖中海ジオパークのユニバー
サルデザイン化の推進に関する調査研究

研究報告書

鎮西学院大学

山口 弘幸

目次

研究目的	1
------	---

研究方法	2
------	---

調査結果の概要	3
---------	---

結論	17
----	----

資料① 調査対象施設のバリアフリー状況調査

資料② 「古代出雲の神話と海と大地の躍動をたどるコース」

パンフレット (案)

研究目的

ジオパークとユニバーサルデザインとの関連において、「日本ジオパークネットワーク」が示すジオパークの自己評価表Aの項目には、インフォメーションセンターにおける障がい者への対応項目の他、ジオツーリズムに関するチェック項目として障がい者用メニューの有無が位置づけられており、ユニバーサルデザインの視点から点検・開発を実施していくことは、ジオパークが持続的に多彩な旅行者を受け入れていく上で重要である。これらは身体障がい者のみならずシニア層をも対象としたユニバーサルツーリズムの受け入れ態勢の整備や誘客対策につながり、ジオパークの魅力の一層の浸透とともにシニア市場の開拓を見すえた島根半島地域の観光振興に資するものであると考える。

島根半島・宍道湖中海の大地の成り立ち、独自の生態系、ジオパークの歴史文化を学び楽しむ上で、貴重な環境資源の保護・保全の観点からは、どこまでの利便性と快適性をユニバーサルデザイン化によって目指していくのか、障害者差別解消法で定められた合理的配慮の観点をも踏まえつつ、段階的整備と限界もみすえた現実的かつ具体的な検討が求められる。そしてジオパークに何を求めて訪問したいのか訪問者の多様性を踏まえて、バリアフリー整備状況の点検を行い、地域社会との合意形成を図りながら整備を進める視点も重要である。その際魅力ある観光ストーリーを設定する中でのツアーコースのゾーニングは一つの方法ではないかと考える。

島根半島・宍道湖中海ジオパークのユニバーサルデザイン化の推進に向けた取り組みとして、松江バリアフリーツアーセンターと連携したツアーコースの設定や広報誌でのプロモーションなどが実際に行われており、こうした独自の取り組みを踏まえつつ、周辺環境の整備を見すえて、島根半島・宍道湖中海ジオパークの地域特性にあったユニバーサルデザイン化の推進に向けた課題の解明と対応力向上に向けた今後の方向性について明示していくことは、誰もが訪問しやすい島根半島・宍道湖中海ジオパークの実現にさらに結び付けていくものであると考える。

そこで本研究では、島根半島・宍道湖中海ジオパークのユニバーサルデザイン化の推進を目的に、これまでの島根半島・宍道湖中海ジオパークのユニバーサルデザイン化の取り組みを踏まえつつ、ユニバーサルデザインの観点から各拠点施設の点検及び開発を実施するとともに、周辺環境としてのバリアフリーに対応した宿泊先や食事処等の検討や福祉タクシーの活動状況を調査し、積極的なバリアフリー情報の発信に向けた基礎的資料の制作を行いたい。それらを踏まえて島根半島・宍道湖中海ジオパークのユニバーサルデザイン化の推進に向けた課題の解明とさらなる対応力向上に向けた方向性について検討を行いたい。

研究方法

調査方法

観光事業者及びジオ資源管理者、バリアフリーツアーセンター等に対するインタビュー調査及び現地視察調査を行い、ユニバーサルデザイン化の推進に向けたハード面、ソフト面の対応状況について情報収集を行う。

調査内容

① ユニバーサルデザイン・ジオツアーコースの設定とチラシ案作成

松江/山陰バリアフリーツアーセンターと連携し、作成されたツアーコースをベースに、ジオサイトを巡る動線上の多目的トイレやバリアフリーに対応した旅館やホテル、食堂やお土産処、福祉タクシー等の移動支援事業者の対応状況の調査を行い、ジオストーリーを織り込む中で情報整備の補完を行う。その中で活用できる資源は、ユニバーサルデザイン・ジオツアーコースのチラシ等の下案に取り込み、車いすユーザーらの旅行者の視点に立った積極的な情報発信のあり方を踏まえて、情報整備を進める。

② バリアフリーツアーセンターと連携した実地調査とプロモーション

上記ユニバーサルデザイン・ジオツアーの実地検証を松江/山陰バリアフリーツアーセンターと連携し、障害当事者と支援者の視点を踏まえつつ、検証を進める。検証の際は、安全管理や路面や段差等の状況把握、トイレ及び駐車場等の状況について、ハード面での課題の列挙にとどまらず、ソフト面での対応可能性や訪れた車イスユーザーらが注意喚起等で判断できるバリア情報とバリアフリー情報の整備を行う。

③ 主要なジオサイトのユニバーサルデザインの観点からの点検

上記の1コースの設定の他、主要なジオサイトについてユニバーサルデザインの観点から点検を行い、地質・地形サイトとそこへ至るツアールートにおけるバリアと安全確認を行う。さらに松江/山陰バリアフリーセンターへのバリアフリーに対応した周辺環境情報の聞き込みを行う中で、インフォメーションセンターを起点とした新たなユニバーサルデザイン・ジオツアーの可能性のある地域の検討を行う。

調査研究の日程

2023年7月28日	松江/山陰バリアフリーツアーセンターインタビュー調査
2023年7月31日	島根半島・宍道湖中海(国引き)ジオパーク推進協議会調査協議
2023年8月1日	松江ビジターセンター周辺地域実地調査
2023年8月2日	出雲大社及び日御碕灯台周辺実地調査
2023年8月3日	日御碕周辺のクルーズ調査及び日御碕、出雲大社周辺実地調査
2023年8月4日	松江/山陰バリアフリーツアーセンターとのモニター調査
2023年8月5日	松江ビジターセンターから美保関灯台周辺地域の実地調査
2024年1月～2月	調査結果とりまとめ

調査結果の概要

① ユニバーサルデザイン・ジオツアーコースの設定とチラシ案作成

インフォメーションセンターを起点としたユニバーサルデザイン・ジオツアーの可能性のある地域の検討を行うために、事前調査として、松江/山陰バリアフリーツアーセンター及び島根半島・宍道湖中海(国引き)ジオパーク推進協議会事務局との聞き取り調査を行った。その上で松江ビジターセンター周辺地域、日御碕ビジターセンター周辺地域の2つのコース設定を念頭にジオ資源の実地調査を行った。また周辺環境として多目的トイレ、食事処及びお土産処、宿泊状況等の情報について、観光協会等での聞き取り調査を実施した。

そうした中で各ビジターセンターごとのコース設定の実現可能性と困難性について以下の通りであった。

・松江ビジターセンター周辺地域

「国引きの大地」をテーマに、歴史・文化・自然の恵みを学び、体感できるコースの設定が可能であるが、バリアフリーの観点から鑑みると、駐車場からの距離、ジオ拠点施設の段差や坂道等の状況、周辺環境としての多目的トイレやお土産処、食事処が動線上にあまりないという課題もあり、さらなる環境整備とともに時間をかけた検証が必要である

・日御碕ビジターセンター周辺地域

古代出雲の神話の伝承と大地の成り立ちなどをテーマに、コース選定として出雲大社を起点としながら、稲佐の浜、日御碕灯台といった主要な観光スポットを抑えつつ、神話とジオストーリーを対比させながら、わかりやすく発見のあるジオコースを織りなせる恵まれた状況がある。さらに食事、お土産処とジオ資源が近接・一体化しているおり、オストメイトやオムツ代を含む多目的トイレの設置状況が良好であること、宿泊先としてバリアフリールームを備えた宿泊先が複数あることなどコース選定に向けた条件が整っている。そして本調査において連携した松江/山陰バリアフリーツアーセンターによるジオ拠点施設のモニター調査と広報誌によるプロモーション活動が展開された実績がある。

上記の検討を踏まえて、今回の調査では2つの地域の中では、コース設定に向けた実現可能性が高く、多くの観光客の集客も見込める日御碕ビジターセンター周辺地域を取り上げる。コースを通して、島根半島の大地の成り立ちと古代出雲の神話との関係性について考えるコースとして、ジオ資源の中から調査対象施設として、①出雲大社、②稲佐の浜、③日御碕ビジターセンター、④出雲日御碕灯台の4施設を選定した。選定理由は次の4点からである。

対象施設の選定理由

① ジオストーリーに根差したコース展開が可能

「国引きの大地」という島根半島・宍戸湖中海ジオパークのテーマに即して、大規模な地殻変動によって豊かな自然と大地が形成され、人々の生活の営みや神話伝承と文化を考えることができる魅力あるコースである。

② 障害者やシニア層の特性やニーズを踏まえている

障害者やシニア層の特性として、個人差はあるが体力的な面からゆったりとした旅を好まれることが多い。そうした中では、3～4 時間ほどでゆったりとしたコース設定を考えることが肝要である。

③ 観光・食事・買い物の一体化して利便性が高い

食事処やお土産処がジオ拠点に併設しており、障がい者やシニア層にとって利便性が高い。また食事についても地元の名物を食することができる、魅力的である。

④ 充実した多目的トイレの点在

ジオ拠点内の多目的トイレにはオストメイトやおむつ交換台などの設備が充実しており、安心して旅行することができる。

日御碕ビジターセンター周辺地域のバリアフリー観光のサポート資源

① 多目的トイレの状況

障害者の外出支援の際、事前にわかると安心できるのが屋外トイレの場所である。コース設定をみすえた周辺ルートにおける多目的トイレの状況は以下の通りである。出雲大社境内に5か所の多目的トイレが設置され、日御碕までの道中の多目的トイレについて、オムツ台やオストメイトが数多く設置されており、良好な配置状況である。しかし稲佐の浜から日御碕までのおよそ15分間の道中でのトイレ利用については、事前に出発前にトイレを済ませるアナウンスを行うなど情報整備と配慮が現段階で重要である。

周辺ルートにおける多目的トイレの状況

2023年8月4日時点

名称	オストメイト	おむつ交換台	備考
① 出雲大社境内多目的トイレ (5カ所)	○ (内4カ所)	○	ベビーシート2台有
② 神門通り広場多目的トイレ	○	○	
③ 縁結びスクエア多目的トイレ	○	○	ベビーシート有

④ 稲佐の浜多目的トイレ	○	○	ベビーシート有
⑤ さつき海浜多目的便所	×	○	ベビーシート有
⑥ 日御碕灯台駐車場多目的トイレ	○	○	ベビーシート有
⑦ 日御碕灯台そば駐車場多目的トイレ	×	○	ベビーシート有

② バリアフリー対応の宿泊について

高齢者や障がい者の方のニーズや状態像は様々であり、バリアフリー対応についての宿泊先の対応状況もそれぞれに異なっている。本人の状態像とニーズによって、宿泊先選択にも幅が出る。本調査対象地域に近いエリアで、車いすの方がよく泊まれるホテルとしては、バリアフリールームがある宿泊先として、出雲大社周辺エリアではお宿月夜のうさぎやグリーンリッチ出雲、出雲グリーンホテルモリスなど複数挙げられる。バリアフリールームではないが、広めの洋室で館内に多目的トイレを有する星のリゾート界出雲も利用されている。

この他にもバリアフリー対応を意識した宿泊先もあり、さらに松江/山陰バリアフリーツアーセンターのホームページでは、バリアフリー対応状況のみならずバリアの存在も踏まえた情報提供を行っており、それらの情報を参考に利用者本人が判断し、問い合わせの際の一助とできるよう積極的な情報提供が行われている。

調査対象地域周辺で車いすの方がよく泊まれるホテル

地域	名称
出雲大社周辺エリア	お宿月夜のうさぎ
出雲大社周辺エリア	グリーンリッチホテル
出雲大社周辺エリア	出雲グリーンホテルモリス
日御碕周辺エリア	星のリゾート界出雲

松江/山陰バリアフリーツアーセンター「てくてく山陰バリアフリーの旅をサポートします」ホームページ

<https://tekuteku-sanin.com/>

② UD タクシー及び福祉タクシーの移動支援の状況

国土交通省が認めるユニバーサルデザインタクシーの認定要領に適合したジャパンタクシーが出雲中央タクシー、出雲一畑交通タクシー、出雲観光タクシーで運行稼働している。その他通常は病院等の送迎で平日は活動している福祉タクシーにおいて、観光利用も可とうたっている事業所として、チェリーサポートや介護タクシーわだがある。

観光移動支援にかかわる福祉タクシーについては、「出雲市高齢者便利帳」を参照したが、これは問い合わせ次第では対応する他事業所も想定できる。UD タクシーの活動状況については聞き取りやホームページ等で確認できたもののみ取り上げている。

UD タクシー

種別	名称
UD タクシー	出雲中央交通タクシー
UD タクシー	出雲一畑交通タクシー
UD タクシー	出雲観光タクシー
福祉タクシー	チェアサポート
福祉タクシー	介護タクシーわだ

⑤ バリアフリー観光のサポート団体

高齢者や障がい者の方のニーズや状態像は様々であり、その人それぞれにあった旅行を実現するために宿泊先や観光施設等とのつなぎ役を果たしていくバリアフリースタアセンターとして、近隣の松江市に松江/山陰バリアフリースタアセンターが活動している。上記①②③の情報を把握し、実際に相談対応を行っている。また鹿児島県内の車いすの方が楽しめるツアーコースの開拓も行っており、「大規模火砕流が織成す自然に癒されるコース」に重なるツアープランを作成している。ただ介助者付き旅行のサポートは直接行っていないため、そうした支援が必要な場合はバリアフリースタアセンターに仲介を依頼するかもしくはUD タクシー及び福祉タクシーを自ら手配するかどちらかの対応が求められる。

鹿児島・宮崎のバリアフリースタアセンター

県別	名称
島根県	松江/山陰バリアフリースタアセンター

②バリアフリースタアセンターと連携した実地調査とプロモーション

ユニバーサルデザイン・ジオツアーのコース選定の実現可能性を具体的に検討するために、障害当事者や介助者を交えてバリアフリー調査を兼ねたモニターツアーを実施した。バリアフリー調査を兼ねたモニターツアーに際しては、松江/山陰バリアフリースタアセンターで、ツアーモデルコースが既に作成されており、そのモデルプランを下地に検討を行い、調査者がさらに追加調査を行う中で、ユニバーサルデザイン・ジオツアー（案）を作成していくものとなった。障害者やシニア層が安心してコースを楽しむためには、情報として事前にバリアの有無やバリアへの対応状況、留意点に分かれれば、自らの状況に応じて介助者が必要であるといったような様々な状況判断を行うことができる。そうした状況判断に資する資料作成を目指して、調査を実施し、情報整理を行った。調査に際しては、車いすユーザーである障害当事者の方とご家族も参加して頂き、モデルとしての撮影等について許諾を得た。モニターツアーの流れは以下の通りである。

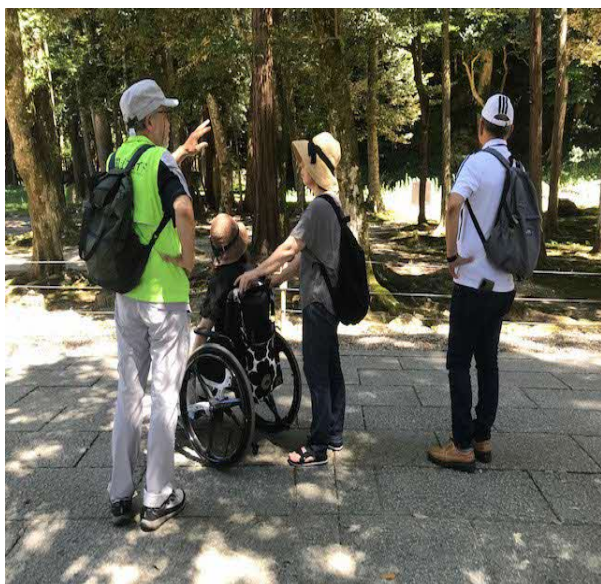
モニターツアーのスケジュール

1. 出雲大社調査(10時集合)
2. 神門通り散策(11時頃到着)
3. 稲佐の浜(調査11時30分頃到着)
4. 日御碕ビジターセンター調査(12時頃)
5. 昼食(13時頃)
6. 出雲日御碕灯台周辺調査及び新聞社取材(14時半頃)
7. 調査終了(15時頃)

モニターツアーの報告について、各拠点施設の必要なバリアフリー情報は別紙の資料①にまとめ、周辺情報を踏めたコースマップ案を資料②に整理している。ここでは簡潔にツアーの様子と調査の留意点にとどめ報告する。

出雲大社

○ツアーの様子



○調査の留意点

出雲大社境内について、一般の駐車場の障害者専用駐車場の確保のみならず思いやり駐車場があり、できる限り砂利道を排して移動できるよう通路が整備されている。さらに多目的トイレが5カ所設置されており、安心して参拝することができる。参拝時には御本殿は階段があり、直接賽銭を入れてお参りすることは一人ではできないが、拝殿においてはフラットに移動できるため、産廃の在り方について事前のアナウンスが必要である。

神門通り周辺

○ツアーの様子



○調査の留意点

出雲大社から神門通りまで祓社には 6 段の段差があり、祓社のそばの脇道を活用して、勢溜に降りれるよう情報整備が重要である。勢溜から大鳥居までの神門通りは坂道となっているため、介助者が基本必要であるが、お土産処や食事処が充実しており、出雲にちなんだ様々な食事や買い物を楽しむことができる。

稲佐の浜

○ツアーの様子



○調査の留意点

稲佐の浜駐車場から岸壁まではフラット移動することができる。砂浜に降りて近くから弁天島を眺めるためには、標柱近くの広めの坂から砂浜に降りる必要があり、介助者が求められる。その際 JINRIKI を活用することでより安楽に移動することができると感じる。次の日御碕ビジターセンターまではおよそ15分で車で移動できるが、道中の中間点等に多目的トイレがなく、出発前にトイレを利用することの事前アナウンスが望ましい。

日御碕ビジターセンター

○ツアーの様子



○調査の留意点

日御碕灯台から日御碕ビジターセンターまでスロープ等の路面環境が整備されており、安心して移動できる。ただスロープ等の傾斜や動線の長さを考えると介助者がいた方が安心である。そしてお手洗いについては、事前に駐車場横の多目的トイレで済ませるなどのアナウンスしておくことが肝要である。ビジターセンター内の展示については、若干車いすの目線から高い。映像資料等について車いすの座面から十分に楽しめるが、島根半島・宍戸湖中海ジオパークそのものの紹介動画があるとよりインフォメーションセンターとしての機能が高まると感じた。

昼食

○ツアーの様子

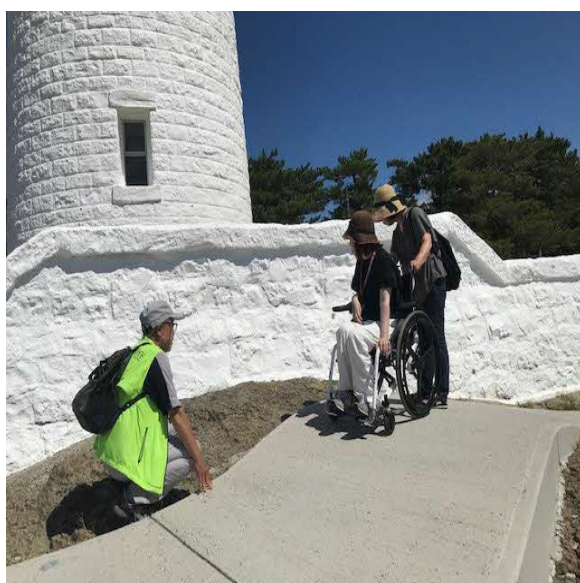


○調査の留意点

日御碕の昼食については、段差なくフラットな環境で地元の新鮮な海の幸を味わうこと
できるお店として、「ぐるめ幸洋」や「Misaki Café Tatsuzawa」がある。こうしたお店の
情報整備を進めることは利便性を高める上で重要である。また多目的トイレについては、
屋外の穂見埼灯台駐車場横多目的トイレか出雲日御碕灯台そば多目的トイレを利用するこ
ととなることもアナウンスしていくことも重要である。

出雲日御碕灯台

○ツアーの様子



○調査の留意点

出雲日御碕灯台については、灯台そのものにはエレベーターはなく、頂上に昇ることは困難であるため、資料館や整備された遊歩道を散策することがメインとなる。移動については基本介護者が必要であり、傾斜の関係で転倒しないようその都度の配慮が求められる。ガイドにあたって車いすの方の目線に合わせた対応と安全管理を意識対応が重要である。また標識等で位置取りからは見えづらい箇所が存在している。

こうした松江/山陰バリアフリースターセンターと連携し、障害当事者と支援者の視点を踏まえた調査の様子について、地元紙である山陰中央新報による取材を受けた。島根半島・宍道湖中海ジオパークの普及とユニバーサルツーリズムの啓発活動につなげることができた。

山陰中央新報記事 2023年9月6日

21 地域 2023年(令和5年)9月6日(水曜日)

島根半島ジオパーク内 大社の観光名所

バリアフリーパンフ作製

月内の完成、配布目指す



出雲日御碕灯台近くの遊歩道を視察する山口弘幸教授(左)とNPO法人プロジェクトゆうあいのスタッフら—出雲市大社町日御碕

島根半島・宍道湖中海ジオパーク内の出雲市大社町の観光スポットを、障害者や高齢者にも安心して巡ってもらう、バリアフリー情報。月内の完成と、観光施設や宿泊施設での配布を目指す。専門家がこのほど現地を視察している。

シオパークの普及啓発を目的とする島根半島・宍道湖中海(国引き)ジオパーク推進協議会の補助金に、ユニバーサルツーリズムを研究テーマとする鎮西学院大(長崎県)の山口弘幸教授が名乗りを上げ、作製されることになった。

出雲大社や稲佐の浜、出雲日御碕灯台などを、山口教授とNPO法人プロジェクトゆうあい(松江市北堀町)のスタッフらがこのほど視察。

山口教授によると、ジオパーク内のバリアフリー化は自然保護の観点から難しい場合もあり、「バリアフリーについての情報」もパンフレットに盛り込むと、身障者向けの駐車場、多目的トイレの有無のほか、サポートが必要な急傾斜や段差なども地図に落とし、写真に収めた。

車椅子を利用しているゆうあいの北尾可奈子さん(38)は「情報があることで障害のある人も来やすくなる」と話した。

(黒沢悠太)

(新聞社使用許諾済)

以上の調査結果を踏まえて、一部配慮を要する点もあるが、適切な情報提供と無理のないバリアフリー状況の改善、介助者の手配を行えば、概ねコース設定が可能であることが見い出せた。

調査結果の詳細については、資料①、資料②を参照されたい。

③ 主要なジオサイトのユニバーサルデザインの観点からの点検

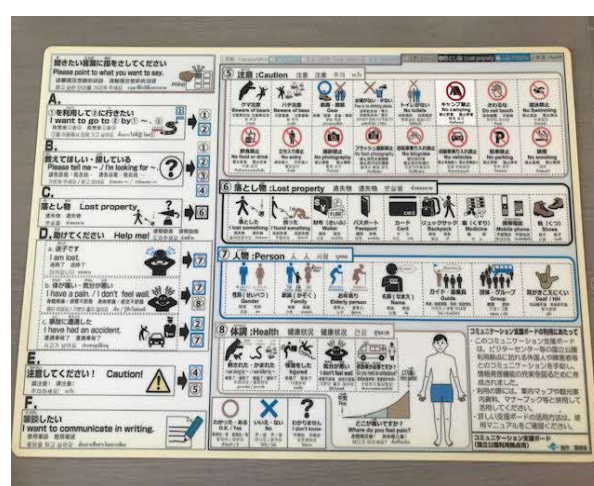
上記の 1 コースの設定の他、インフォメーションセンターを起点とした新たなユニバーサルデザイン・ジオツアーの可能性のある地域の検討を行うにあたり、松江ビジターセンター周辺から美保関灯台までの主要なジオサイト①松江ビジターセンター、②加賀の潜り戸、③桂島、④多古の石柱、⑤美保神社と青石畳通り、⑥美保関灯台について、ユニバーサルデザインの観点から点検を行い、地質・地形サイトとそこへ至るツアールートにおけるバリアと安全確認を行った。

①松江ビジターセンターについては、車いす専用駐車場が設置され、館内フラットでエレベーターがあり、展示物も車いすの目線から見やすい高さに設置されており、安心して楽しむことができる。車いすの館内貸し出しやAED設置も進んでおり、多目的トイレについては、おむつ台があるもののオストメイトは設置されていない。周辺環境にもオストメイト対応の多目的トイレがないため、設置は課題である。

車いすから見やすい展示



コミュニケーションボード設置



②加賀の潜り戸については、小型の遊覧船で楽しむコースとなっており、船内にはトイレがないため、事前にアナウンスが重要である。障害のある方、シニアの方それぞれの状態像はあるが、車いすでの乗船について、乗船シートに移乗できれば複数の介助者で対応で船内に移動は可能となるが、車いすそのものから船内に乗れるようなバリアフリー化や環境改善の視点が安全管理を考える上でも重要である。

遊覧船



乗船乗り場入り口



③桂島については、駐車場から桂島の休憩所付近までの神崎橋の整備が進められており、ベビーカー及び車いすの移動が可能となっている。休憩所付近には公衆トイレがあるが、多目的トイレの設置はなく、段差があるため、最寄りの多目的トイレまでの距離数や時間を考えると改修が求められる。遊歩道についても一定程度進むことができるが、安全管理の視点からは車いす移動可能ルートの特長明示化も重要である。

改修された神崎橋



遊歩道からの眺望



④多古の石柱、については、沖泊の駐車場に多目的トイレが設置されているものの、駐車場からのアクセスや坂道等の状況を鑑みると、介助者がいても移動は困難である。バリアフリー化された遊覧船からのアプローチによる眺望の方が現実的かもしれない。

多古のジオサイトの案内標識



- ④ 美保神社と青石畳通りについては、周辺の宿泊や食事、買い物等の利便性を考える上でも、立ち寄りスポットとして重要であるが、美保神社の境内については、階段があり、複数の介助者がいない限りには境内の散策は困難である。青石畳通りについては、畳通りであるがゆえの段差や振動はあるものの、介助者がいたり、「JINRIKI」等の移動支援器具の活用などでより散策が楽しめるものとなると考える。また青石畳通りの散策ルートの標識について、車いすの方も含めてであると親切かもしれない。

美保神社入口



青石畳通り入口



⑥美保関灯台については、日本海や隠岐の島への眺望などを楽しめるスポットで、車いす専用駐車場の設置のほか、多目的トイレも設置されている。敷地内にはビュッフェがあり、食事や買い物を楽しむことができる、ビュッフェ入口に5 cm程度の段差があるが、建物内部はフラットな環境である。

車いす専用駐車場



美保関灯台



主要なジオサイトのユニバーサルデザインの観点からの点検については、松江ビジターセンター周辺から美保関灯台のルート上で、滞在型観光に向けたもう1ルートの可能性を模索しつつ、点検を行った。

松江ビジターセンターの他、青石畳通り、美保関灯台が候補となるものの、動線が長くその中で多目的トイレ、お土産、食事処が少なく、オストメイト対応のトイレ設置など時間をかけた整備が求められる。

そうした中でも桂島や加賀の潜り戸の遊覧船の更なる安全対策とバリアフリー化が進めば、松江ビジターセンター周辺でアクティビティを踏まえたコース設定が可能となり、日御碕コースと組み合わせた滞在型観光プログラムの創設に結び付くことが考えられる。

コース設定にあたっては現実的検討として、一定程度のゾーニングと計画的な整備の視点が重要であり、国立公園と連携しながら段階的にも整備を進めていくことが重要である。

結論

本研究では、島根半島・宍戸湖中海ジオパークのユニバーサルデザイン化の推進を目的に、ユニバーサルデザインの観点から各拠点施設の点検及びユニバーサルデザイン・ジオツアーの企画開発の検討を行った。バリアフリー環境及び宿泊先等の状況を踏まえる中で、日御碕ビジターセンター周辺地域を選定し、拠点施設及び周辺ルートの多目的トイレの調査等を行う中で、一部配慮を要する点もあるが、一部配慮を要する点もあるが、適切な情報提供と無理のないバリアフリー状況の改善、介助者の手配を行えば、概ねコース設定が可能であることが考察された。

本研究結果がジオパークにもたらす成果として、ジオパークの再認定に関わる自己評価表 A の「障害者用ツアー」の設定並びに「インフォメーションセンター対応状況」の点検を行うことができた。さらにそれらはユニバーサルツーリズムの環境整備や地元の高齢者や障害のある方が安心してジオパークを楽しめる環境づくりと普及啓発にも寄与することができた。

今後の島根半島・宍戸湖中海ジオパークのユニバーサルデザイン化の発展課題として、①観光資源のソフト面とハード面の両面を捉えた可能な限りでのバリアフリー環境の改善検討、②UD タクシー等によるコース設定や移動介助付きガイドの検討、③車椅子の方が楽しめるジオ拠点施設の情報標記とバリア等も含めた積極的な情報発信の 3 点が考えられる。

①観光資源のソフト面とハード面の両面を捉えた可能な限りでのバリアフリー環境の改善検討について、ハード面の改善として、各拠点施設の点検を進め、観光資源のバリアフリー化の推進を施策的課題に位置づけて、整備推進を図っていくことが重要である。ソフト面については、バリアフリーの観点からのコース上の危険箇所や留意点の共有や車いす操作やガイドの説明時の注意点など対応力向上に向けたガイドの研修機会の確保が必要である。今回は車いすをメインに検討を行ったが、優しい日本語や多言語化への対応の検討も観光協会と連携しながら検討を進めることによって、あらゆる人々に対応するユニバーサルデザイン・ジオツアーに成長していくことを期待してやまない。

②UD タクシー等によるコース設定や移動介助付きガイドの検討では、ユニバーサルデザイン・ジオツアー案の活用方策として、ジャパントクシー等の UD タクシーと連携したプランを創設する中で、移動手段の介助者の確保に結び付く。内部においてもジオガイドで看護師や介護の仕事の経験がある場合、移動介助を含めたガイド料の設定などの検討も一つの工夫である。福祉タクシーとの連携も進めば、様々な状態像の方への対応が可能となるため、バリアフリーツアーセンターと連携しながら移動支援のあり方について検討を進めていくことが重要である。

③車椅子の方が楽しめるジオ拠点施設の情報標記とバリア等も含めた積極的な情報発信

については、整備過渡期での積極的なバリアフリー情報の発信としては、対応可能性とともにどこに対応困難性があるのかを誠実に伝えて、訪問する側が選択し、意思決定できるようにする仕組みづくりがまず重要ではないかと考える。標識案内やパンフレット等で車いすで行ける所には車いすマークを表記する、遠望からの眺望であれば「遠望眺望」と併せて付記するなど合理的配慮を情報整備の面から進めていくことが、できることの工夫の一つとして重要である。

本調査を契機としたユニバーサルツーリズムに対応した観光地づくりと福祉のまちづくりが連動する中で、住んでいる人にとっても、訪れる人にとっても移動しやすく生活しやすいまちづくりに発展していくことを祈念したい。

最後に本調査にご協力頂きました松江/山陰バリアフリースターセンターの皆様、島根半島・宍道湖中海(国引き)ジオパーク推進協議会の事務局やガイドの方々にも心より感謝申し上げます。また調査にご協力いただきましたジオ拠点施設の皆様、観光協会等の方々にも御礼申し上げます。

調査対象施設のバリアフリー状況調査

※ 調査実施の観点及び情報整理についての留意事項

- ①調査に際しては、現地確認によるハード面の調査のみならずソフト面での対応状況について施設職員からの聞き取り調査を実施している。
- ②専門家のみならず障害当事者の視点を重視する観点から、障害当事者の調査員と協働して、実査を行なっている。
- ③様々な旅行困難者が「使える情報」を目指して、「対応している部分」だけでなく「現段階では対応できていない部分」を踏まえて、旅行困難者側が自己判断できるよう「留意点」の項目を設けている。
- ④バリアフリー状況の情報発信については、障害者用の関連マークを積極的に採用した。その際「長崎市公式観光サイトあっ！とながさき」（ホームページ）の情報表記を参照・引用し、わかりやすい情報表記を目指している。

出雲大社



出雲大社は、日本最古の歴史書といわれる「古事記」に国譲り神話として、その創建の由縁が記されているほどの古社で、主祭神は大国主大神となっています。参拝者は年間約 600 万を数え、縁結びの聖地として賑わっています。境内へのアクセスについて、一般の駐車場に障害者の専用区画があるほか思いやり駐車場も設置されており、駐車場から本殿内に至るまでコンクリートで路面が整備されています。多目的トイレも数カ所設置されています。

○基本情報

住所	出雲市大社町杵築東 195
電話番号	0853-53-3100
営業時間	年中無休 参拝時間 6時～19時 お守り所 6時～19時 宝物殿 8時半～16時半
料金	無料
アクセス	山陰道出雲 IC から車で約 15 分 JR 出雲市駅から出雲大社までバスで約 25 分
備考	駐車場から本殿までコンクリート一部舗装、多目的トイレ複数設置、車いす貸し出し有

○バリアフリー対応状況



○バリアフリー情報

思いやり駐車場



出雲大社駐車場には身障者用の駐車スペースが複数台ありますが、勢溜近くにも思いやり駐車場があり、安心して移動できるよう車いす参拝道が整備されています。

多目的トイレと車いす貸し出し



境内には複数のオストメイトやオムツ台が設置された多目的トイレがあり、社務所では、車いすの貸し出しを行っています。気軽にご相談ください。

○留意点

拝殿と御本殿での参拝



拝殿にはスロープがあり、フラットでお参りすることができますが、御本殿前は階段が7段あり、ご本殿での参拝には介助者が必要です。

勢溜周辺の移動



出雲大社入口の勢溜には6段の階段があります。坂道を少し上ると、段差のない脇道がありますので、そちらをご利用頂くか、思いやり駐車場からの車いす参拝道をご利用ください。

稲佐の浜



稲佐の浜は、「古事記」「日本書紀」に描かれた国譲り神話の舞台で、日本各地から 800 万の神々が降臨する神聖な場所とされており、旧暦の 10 月 10 日には神々を迎える「神迎祭(かみむかえさい)」が執り行われています。海岸に突如として現れる大きな岩「弁天岩」には小さな鳥居と社が建てられており、豊玉毘古命(とよたまひこのみこと)が祀られています。真っ白な砂浜と見事な海岸線がつづく稲佐の浜は、「日本なぎさ 100 選」、「日本遺産」にも選ばれた風光明媚な海岸であり、多くの観光客が夕日を見に訪れます。駐車場横には多目的トイレがあり、浜のそばまではフラットな環境で移動できます。

○基本情報

住所	出雲市大社町杵築北 2844-73
電話番号	10853-31-9466(出雲市観光協会)
営業時間	年中無休
料金	入場料無料
アクセス	出雲大社から車で約 5 分 出雲市駅から車で約 20 分
備考	多目的トイレ駐車場横

○バリアフリー対応状況



○バリアフリー情報

車いす専用駐車場



駐車場には、車いす専用駐車スペースが2台あります。

多目的トイレ



駐車場そばにはおむつ交換台とオストメイトを備えた多目的トイレが設置されています。

○留意点

浜に降りる通路



駐車場から浜辺への移動について、駐車場左手から浜に降りる通路があります。気をつけて利用してください。

介助者について



浜周辺は砂場や階段があり、移動には介助者が必要です。

日御碕ビジターセンター



日御碕ビジターセンターは、ジオパークを始め日本遺産「日が沈む聖地出雲」や大山隠岐国立公園地域としてのPR展示として様々なパンフレットを取り揃えています。紹介映像や展示パネルによるわかりやすい解説もあります。観光案内所として、観光情報の提供や体験プログラムの受付・手配を行っています。車いすの貸し出しや手荷物の預かりのサービスも行っております。ビジターセンターを拠点に、ジオパークのガイドも行われています。場所は日御碕駐車場から灯台へ向かう階段の下にあります。

○基本情報

住所	出雲市大社町日御碕 1089-37
電話番号	0853-54-5400
営業時間	年中無休
料金	無料
アクセス	出雲大社から日御碕駐車場まで車で約 20 分 日御碕県営駐車場から徒歩で約 5 分
備考	日御碕県営駐車場に駐車 多目的トイレは日御碕県営駐車場を利用

○バリアフリー対応状況



○バリアフリー情報

フラットな環境



ビジターセンター入口にはスロープがあり、館内もフラットな環境で、安心して展示物や映像資料を楽しむことができます。

車いすの貸し出しについて



日御碕観光案内所のデスクがあり、車いすの貸し出しを行っています。手荷物の預かりやお土産等の物販もありますので気軽にご相談ください。

○留意点

多目的トイレの利用について



ビジターセンター内には多目的トイレはありません。駐車場横の多目的トイレをご利用ください。

ビジターセンター周辺の移動



ビジターセンター周辺はスロープや路面が整備されていますが、長い傾斜や坂道があるため、介助者がいた方が安心です。

出雲日御碕灯台



出雲日御碕灯台は、島根半島の最西端の断崖にそびえる高さ日本一の白亜の灯台であり、明治 36 年に設置されました。海面からは柱状節理の上にたたずむ壮大堅固な造りとともに、美保関町で切り出された美しい白壁を眺めることができ、夕日を眺める名所ともなっています。出雲日御碕灯台周辺には多目的トイレと展望台が設置されており、駐車場から灯台まで坂道と傾斜がありますので介助者が必要です。灯台内部にはエレベーターはなく、らせん階段で頂上まで昇るため、車いすで頂上に昇るのは困難です。

○基本情報

住所	出雲市大社町日御碕 1478
電話番号	0853-54-5341
営業時間	年中無休（天候不順時及び工事期を除く）
料金	入場料 300 円 ※ 障害者手帳提示により本人及び付き添い介助者 1 名まで無料
アクセス	出雲大社から日御碕駐車場まで車で約 20 分 日御碕県営駐車場から徒歩で約 5 分
備考	日御碕県営駐車場に駐車 多目的トイレ灯台敷地すぐそばです

○バリアフリー対応状況



○バリアフリー情報

多目的トイレ



灯台敷地のそばに多目的トイレが設置されています。おむつ台、ベビーシートが設置されています。

路面の状況と展望台の設置



駐車場から灯台周辺は路面の整備が進んでおり、随所に展望台が設置されています。海と岸壁のコントラスト、美しい夕日を楽しむことができます。

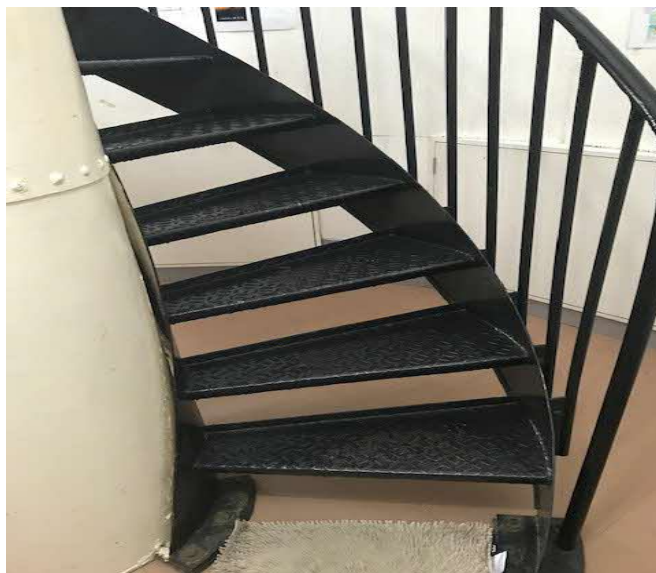
○留意点

灯台及び資料館の通路



駐車場から灯台敷地まで路面の整備が進んでいますが、坂道と長い傾斜があり、介助者が必要です。車いすでの移動について、灯台内外に階段があり困難ですが、資料館は一段段差を超えると楽しめます。

灯台内の移動



灯台内にエレベーターはなく、最上階まで163段のらせん階段で登ります。車いすでの移動は困難です。

「古代出雲の神話と海と大地の躍動をたどるコース」 パンフレット（案）

パンフレット（案）の留意事項と検討課題

- ①多目的トイレの表記は、調査結果を踏まえて、一部抜粋している。
- ②パンフレット（案）の実用性を高めるには、「QR コード」を用いて、[資料①](#)との紐付けをはかることが有効であり、積極的なバリアフリー情報発信ともなり得る。
- ③「障害者用のジオツアー」としてだけでなく、子連れのベビーカーへの対応力もあり、各施設拠点の多言語化の対応が進めば、「あらゆる人々に対応できるジオツアー」への展開も見込める。当面は、「障害者用のジオツアー」としてモニターツアーの実施など更なる検証が必要である。
- ④ガイド付きジオツアーについては、事前にバリアフリーツアーセンター等と連携したガイド研修を実施することが望ましい。

島根半島・宍戸湖 中海ジオパーク

ユニバーサルデザイン・
ジオツアー(案)



島根半島・宍戸湖中海
ジオパーク

国引きの大地



ジオパークは、岩石や地層だけでなく、生き物、歴史文化、食べ物など地球を丸ごと学び、楽しむことができる「大地の公園」です。

古代出雲の神話と海と 大地の躍動をたどるコース



①出雲大社



②稲佐の浜



③日御碕ビジターセンター



④出雲日御碕灯台

地質時代の大規模な地殻変動によって豊かな自然と大地が形成され、出雲の神話や文化に結び付いています。その彩りを体感するコースです。

※ 上記コースはゆっくりまわって概ね4時間です。

食の恵み



出雲そば



海鮮丼



出雲ぜんざい

コース周辺の店舗でそれぞれ召し上がれます。

ご宿泊



お宿 月夜のうさぎ



グリーンリッチホテル出雲

車いすを利用される方が良く泊まれるホテルです。詳細は直接お尋ねください。

1 出雲大社

オオクニヌシを祀り、縁結びで有名な出雲大社は、参拝者が年間600万人を数えます。出雲の地で育まれた信仰と歴史を感じることができます。

入場料無料
6時～19時
年中無休



2 稲佐の浜

稲佐の浜は、神在月に八百万の神々が最初に降り立つ場所とされ、「日が沈む聖地出雲」として日本遺産に認定された美しい浜です。

入館料無料
屋外施設
年中無休



3 日御碕ビジターセンター

日御碕ビジターセンターは、ジオパーク・日本遺産・観光を紹介する情報発信の拠点施設です。ガイドの手配や体験プログラムの受付も行なっています。

入場料無料
9時～17時
年中無休



4 出雲日御碕灯台

出雲日御碕灯台は、柱状節理が広がる流紋岩の岸壁に明治36年に設置されました。高さは43.65mあり、石造灯台としては日本一の高さを誇ります。

入場料 300円 (手帳無料)
【3月～9月】
土日祝 9:00～17:00
平日 9:00～16:30
【10月～2月】
9:00～16:30
年中無休



5分

15分

徒歩5分



バリアフリー
情報

食事処・お土産処 ★

- 神門通り商店街
- 道の駅大社ご縁広場
- 日御碕周辺店舗

車いすの方がよく泊まれるホテル H

- お宿 月夜のうさぎ
- グリーンリッチホテル出雲

バリアフリースターセンター

- 松江 / 山陰バリアフリースターセンター

日本海

